

# 新 市 町

## かしま 鹿島町

砂光茫たる鹿島灘、西は風光明媚な北浦にのぞみ、豊沃な水田地帯で中央部は高合をなし地味肥沃な畑地山林であるが、武神武甕槌神を祭る鹿島神宮を中心に観光地としても全国に知られている。大昔この地方は、鹿島神領に属したが、承平年間平国香が常陸大掾に任ぜられてからは、その氏族鹿島氏の支配を受けた。その後天正の末鹿島氏滅び、佐竹氏、里見氏の支配を経て明治維新まで300年徳川氏の旗下に属しており、明治4年7月廃藩置県によって宮城県、明治5年11月新治県、明治8年5月に茨城県と順次編入されたが昭和29年9月15日には旧鹿島町を中心に隣の高松、豊津、豊郷、波野村が合体して、面積50.36平方町、人口16,258人、(男7,832、女8,426)世帯数1,817を有する(昭和32年6月毎月人口調査)新町が再誕生し、県南地方における産業、交通、教育、観光の中心地として大いに発展するものと思われる。

### 2. 産 業

まず農業面を見ると、農家数1,980戸、農家人口12,689人(男6,100、女6,589)耕地面積1,845町(田993町、畑830町、樹園地22町)山林1,478町を有している。(昭和32年冬期調査)中でもさつまいも597町、大麦305町、小麦338町、たばこ86町、なたね57町の栽培が多く、さつまいもは県内有数の産地として知られ農家収入の大きな財源となっている。次に畜産面を見ると、乳牛15頭、役牛896頭、馬153頭、山羊112頭、豚2,423頭、鶏91頭、にわとり13,052羽、あひる46羽(昭和32年冬期調査)を有しており、くずさつまいもを自給飼料とする養豚は昔から盛んで、町としても本年は種豚50頭を購入して広く貸付を行い、また来年は優良乳牛を50頭移入して酪農経営の奨励を計り、養豚組合の統合強化や搾乳場、迫込舎の建設奨励と相まって、次第に農業の有畜化、多角化を促進する計画の由、ここではすでに新町村建設モデル町村に指定され、新農山漁村振興計画指定町には来年度から指定されることになっており、今後の発展が注目される。次に農機具の普及状況を見ると、電動機114台、石油発動機680台、ガゼントラックター1台、ハンドトラックター1台、動力耕うん機5台、動力脱穀機721台、足踏脱穀機754台、動力糶すり機48台、製粉機95台、精米機443台、精麦機32台、噴霧機5台、人力用噴霧機118台、動力撒粉機11台、製糶機57台、製糶機89台、足踏1.240台、畜力カルチベーター17台、畜力水田中耕除草機16台、碎土機421台、人力用いも糠飼料機1台、畑用播種機276台、畑用畜力すき337台、田用畜力すき1,049台、家畜用いも磨砕機4台、いも切機24台に達し(昭和32年冬期基本調査)次々に農業の機械化が進んでいる。

### 4. 財 政

昭和32年度一般会計歳入歳出予算

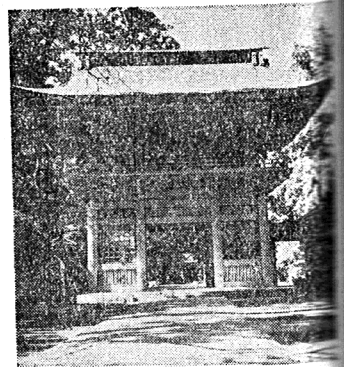
(単位円)

歳 入	町 税	地 方 交 付 税	公 営 企 業 及 び 財 産 収 入	使 用 料 及 び 手 数 料	国 庫 支 出 金	県 支 出 金	寄 附 金	繰 入 金	繰 越 金	雑 収 入	合 計				
											合 計	予 備 費			
	17,887,336	15,305,000	8,141	480,190	3,546,002	718,502	300,002	114,258	350,000	510,301	39,219,732				
歳 出	議会費	役場費	警 察 防 護 費	土 木 費	教 育 費	社 会 及 び 労 働 施 設 費	保 健 衛 生 費	産 業 経 済 費	財 産 費	統 計 調 査 費	選 挙 費	公 債 費	諸 支 出 金	予 備 費	合 計
	1,299,000	11,572,503	1,981,740	2,758,100	8,527,742	6,055,520	441,100	3,577,100	76,739	144,040	108,900	900,048	1,427,200	350,000	39,219,732

次に商業面を見ると鹿島地区を中心に昔から発達したが、法人および常用労働者を有する個人商店28、従業者数115名、年間販売額2億1,776万円、常用労働者のいない商店数287、従業者数490名、6月中販売額901万円に達しているが、食料品、雑貨、衣服身廻品などの小売業が大部分を占めているに過ぎない。また工業面も従業者3人以下の工場数42、従業者数108名、年間製造出荷額2,724万円、従業者4人以上の工場数20、従業者数124名年間製造出荷額9,569万円であるが、澱粉製造業の多いことが目立っている。しかし、はまぐりの貝殻を原料とする著石の製造工場があつて、今後の発達が注目されている。

### 3. 教育文化

ここには高等学校1、中学校4、小学校5(分校1)保育所があつて、高校生徒571名(男421、女150)、中学生徒1,417名(男718、女699)、小学児童2,402名(男1,391、女1,011)(昭和32年学校基本調査)保育所収容児50名を有しているが、県南地方における農業教育の中心地である。学校施設の統合強化計画を進めているが、地方における青少年の体育向上を計るために野球、陸球、バレーなどの総合的な神宮競技場(6,000坪)の建設を企図している。また青年、婦人団体、PTAの活動もめざましいが特に青年団の演劇活動は素晴らしく、全国コンクールに出場して優秀な成績を取った由。また沼尾地区の生活改善運動は他市町村の模範的実績をあげて再三表彰を受けている。ここには鹿島神宮を中心とする名所旧蹟が多く、元和5年に改めて造営された元官幣大社の社殿、神代を偲ぶ老杉、うつ蒼たる輿馬場、国宝で荘厳な奥宮、伝説の多い要石、鹿島政幹の築いた鹿島城、水面延長全国一を誇る神宮橋、聖徳太子の創立されたといわれる根本寺、古戦場、高天の原、足利時代の名剣士塚原ト伝の墓がある。特に鹿島神宮の宝物殿には1,200年頃の作といわれる国宝の御神刀(双渡り8.95尺)をはじめ光仁天皇の御神璽「申田宅印」後一条天皇の中宮藤原成子の奉納した白玉、など数多くの宝物が保管されている。また毎年神宮祭頭祭、神幸祭、12年に一度の御船祭などは、誠に古式豊かな大祭事で近郷近在ははじめ関東近県の参観者で大変にぎわうということである。



(鹿島神宮楼門)

# 村の横顔

## 麻生町

### 1. 沿革

この町は鹿島彦宮鉄道玉造駅からバスで約50分、行方郡の中部に位置し、北は玉造町、北浦村に南は潮来町、玉造町にそれぞれ接し、西は霞ヶ浦、東は北浦にのぞむ湖沼帯びな地方で水郷情緒に溢れている。この町の歴史は古く、孝徳天皇の白雉年間にさかのぼる。中世を通じて、常陸大掾の諸氏の子孫行方宗幹の支配となり、子小高太郎、島崎次郎、麻生三郎などが割拠して四郎の威武を振って約400年の門閥を誇つたが天正19年佐竹氏に滅された。その後徳川時代に入り、佐竹氏が移封されてからは水戸藩の所領となり、慶長17年から新井氏が明治維新まで善政をした。明治4年廃藩置縣の新治郡に属したが、明治8年茨城県に編入された。そして昭和30年3月31日に、旧麻生町を中心とする太田、大和、小高、行方村が合体して、今や面積60平方町、人口21,281人(男10,340、女10,941)を擁する(昭和32年6月毎月人口調査)新しい町として発足したが、行方地方における産業、経済、教育、観光上の中心地の上り、今や全町民の福祉増進と生活向上のために力強い足どりを示している。

**2. 産業** まづ農業面を見ると、農家数2,680戸、農家人口17,387人(男8,528、女8,859)、耕地面積1,407町(田1,524、畑1,180、樹園地58町)、山林1,407町、厚野141町を有している。中でもさつまいも446町、大豆230町、小麦451町なたね230町、大豆151町、たばこ122町、らつかせい111町などの栽培が多い。

次に畜産面を見ると、乳牛48頭、役牛1,487頭、馬286頭、めん羊70頭、山羊67頭、豚1,457頭、兎555頭、にわとこ14,341羽、あひる125羽を有している。町としては新農業設計画指定を機会に主穀経営から脱却して養豚組合、養鶏組合、農業協同組合の統合強化の推進と相まって、農産物の奨励、有畜農業への転換を企図している由。

次に農機具の普及状況を見ると、電動機108台、石油発動機1,026台、ガーデントラクター3台、ハンドトラクター2台、動力耕うり機9台、動力脱穀機1,105台、足踏機1,103台、動力糶すり機57台、製粉機49台、精麦機458台、精麦機22台、動力噴霧機3台、人力噴霧機23台、動力撒粉機11台、製蓮機13台、製糶機46台、足踏機2,308台、畜力カルチベーター69台、水田中耕除草機33台、碎土機372台、動力用いも糠飼料機7台、人力2台、畑用播種機19台、畑用畜力すき591台、田動力すき1,467台、家畜用いも磨碎機3台、いも磨碎機20台を有し、次第に農業の機械化が進んでいる。

またここは霞ヶ浦と北浦を利用する内水面漁業が非常に盛んで、わかさぎ(12万メ)、はぜ(7万メ)、いさざ(10万メ)、こい(5万メ)、うなぎ(5万メ)、えび(4.5万メ)、ふな(3.8万メ)、その他(4万メ)など、年産50万メに近い漁獲高をあげ、半農半漁の兼業農家の大きな

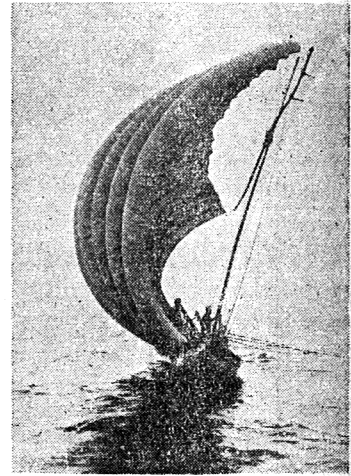
収入源をなしているが、漁具や技術の進歩によつて、乱獲の嫌いも少くない由。特に帆曳船が風速を利用して袋網によるわかさぎ取りは誠に特異な風情である。近く麻生漁港の改修を行い漁船の出入を円滑にして漁獲の増大を期している由。次に商業面を見ると、法人および常用労働者を有する個人商店11、従業者数8,267名、年間販売額1億1,527万円、常用労働者のない個人商店231、従業者数463名、6月中の販売額2,104万円で、食料品、衣服身廻品小売業が殆どである。(昭和31年商業調査)

次に工業面を見ると、従業者3人以下の工場50、従業者数117名、年間製造出荷額4,147万円、従業者4人以上の工場7、従業者数55名、年間製造出荷額2,338万円であるが、澱粉工場やわかさぎ、しらうおの煮干や佃煮類の加工業者の外は見るとは見るべきものはない。(昭和31年工業調査)

### 3. 教育文化

ここには高校1、中学校5、小学校7、幼稚園1あつて、高校生徒639名(男463、女176)、中学生徒1,417名(男718、女699)、小学児童3,164名(男1,612、女1,552)、園児98名(男39、女59)を有しており(昭和32年学校基本調査)中学校の統合強化をはじめ、施設の整備拡充に努めている。また公民館は本館1、分館4あつて、施設の近代化と優良図書を増加を計つて社会教育の振興を期しており、PTAや青年婦人団体の活動もまた活潑である。婦人会を中心とした蚊、のみ退治の薬剤撒布は相当普及して立派な実績を収めている由。また国民健康保険も昨年6月から全町加入を実現して町からも毎年160万円余を繰出し、直営診療所も一カ所あつて全町民の医療の改善向上を促進している。道路交通関係も観光道路の舗装をはじめ町道の新設改良や砂利敷きなど毎年2~300万円を支出してこれが整備を行っている由。

この地方は古い歴史を持つているので、名所旧蹟も多く、建長3年(705年前)に創立された蓮城院の虚空蔵菩薩、どぶろく祭りで有名な春日神社馬とみこしの押合いで異名のある祇園祭、羽黒城跡、国定公園に近く指定される天王崎などがあるが、湖岸一帯の美しい眺望は観光施設の拡充によつて遠近の観光客を誘うことであらう。



(帆曳船)

### 4. 財政

#### 昭和32年度一般会計歳入歳出予算

(単位円)

歳入	町税	地方交付税	公営企業及使用料及び財産収入	国庫金	県支出金	寄付金	繰越金	雑収入	町債	合計					
入	32,646,100	17,945,700	22,700	1,631,000	9,195,000	1,453,000	549,000	1,386,700	3,403,400	16,600,000	84,832,600				
歳出	議会費	役員費	消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
出	1,231,600	19,684,000	4,524,000	7,541,900	33,173,200	910,500	1,774,900	5,923,629	297,100	195,600	2,979,900	5,467,800	500,000	84,832,600	